

第1学年通信

新風

宮崎学園
中学校
学年通信
第5号

9月のできごと！

2学期が始まってもう1か月が過ぎようとしています。その間、学園祭（文化祭・体育大会）がありました。文化祭では各クラス合唱に頑張りました。毎日練習を重ねながら上手になっていくのに感心していました。本番では練習をはるかに上回る披露ができたのではないかと感じています。体育大会は天候の悪い日が続き2日遅れで行いました。当日は元気一杯動き回り徒走にリレーに頑張っていました。

秋の遠足がありました。21日に都城の高千穂牧場でチーズ作りを体験したり動物や自然と触れ合ったり、皆でお弁当やお菓子を食べたり、楽しい一日を過ごしてくれたのではないのでしょうか。

ビブリオバトルでは、1年から3年までの各クラスの代表が大坪記念ホールのステージで堂々と発表しました。その他の生徒は発表をしっかりと聞いていました。「読書の大切さ」ということを色々な場面で聞いたり目にしたりします。大学の教授や作家も読書の大切さを提唱しています。「国語」の授業も担当している私としては、おおいに「読書」を推奨します。私が中学・高校生だったころ、同じ大きさの文庫本を書棚に綺麗に並べることにはまりました。本を購入しては読み棚に並べそしてそれを眺める・・・(満足感)。様々なジャンルの本を読みあさった記憶があります。本を読むことは教養を高めたり思考力や想像力を伸ばしていくのによいものです。

大学時代の衝撃！

書道の教員になりたくて入学した大学の初めに、書道演習という授業の寺山先生の話の内容に衝撃を受けたのです。先生の話の概略は次の通りです。

「書道を学んでいる諸君に話しておきたいことがある。書道は紙と墨と筆の芸術である。筆の使い方や種類・紙の種類・墨の濃淡などの表現方法は様々である。書家と呼ばれる人たちが苦勞して自分のスタイルを確立し、多くの人が師事して学んでいる。私のスタイルとは「線」命ということだ。筆に墨をつけ紙に線を引く。その線は深く青みがかっているように書くのが大事なんだ。（青みを帯びる線って墨の違いじゃないのかな？）墨のせいじゃないんだよ。筆を立てて五本の指で持ち、墨の粒子が均一になるように書けば青みがかかるのだよ。（墨の粒子って何のこと？）顕微鏡で確認した違いを見せるのでわかってもらえるかな。（実際に見ると全く違う！そんな色があるのか。墨の粒子にまでこだわっている人がいるのか。）しかし、これほどの線が書けるまでにはかなりの年月がかかった。自分の目指すものをとことん追求し時間と労力をかけた結果だ。私のようになれと言ってるのではない。諸君も努力を怠るなということが言いたいのだ。」と。

そんな書き方で書かれた作品は素晴らしかった。衝撃だった。大学の先生や書家はこれほどまでにすごいのか。基本は筆の使い方、整った字の形、墨の黒と半紙の白のバランスを考えて練習することにあると思うが、その基本の上に自分独自のスタイルの確立することの大切さを実感した。学校教育としての書道の上に芸術書道があるのだと、今さらながら考えさせられた。何も書道に限らず、どんな事にも通じるものがあるのではないかと強く思う。あの衝撃からかなりの年月が経ったが未だに忘れられないできごとであった。